

1) 極小未熟児の就学前後における微細神経徴候と 知能検査 (WISC-R) の変化

分担研究者 前川 喜平
研究協力者 川上 義 中江 陽一郎
共同研究者 今泉 岳雄 斉藤 和恵

方法:

日赤医療センターにおいて2名の極小未熟児について、就学前(6歳1カ月±3.6カ月)、就学後(7歳4カ月±3.3カ月)の微細神経徴候の変化を検討した。また、同時にWISC-Rを施工し就学前と比較した。

結果:

微細神経徴候(表1)のうち、前腕の回外・回内、鏡像運動、片足立ち、継ぎ足歩行などの項目は著名に改善されているものが多い。これに対し、側方注視、不随意運動、右左識別、crossed laterality はあまり変化がみられない。就学前のみにおこなったゲルストマン徴候では、23名中8名が境界、異常であった。WISC-RテストではFIQ98.3が101.1、V

IQ93.7が98.3、PIQ103.5が104.3と、言語性IQに有意の上昇がみられている。

23名の就学前との就学後のWISC-Rによる知能テストの結果を表2に括めた。23例中16例(69.6%)にWISC-Rにより就学後IQの上昇を認めた、なお*印は今回のテストのために新しく採用した心理で、結果が総て低くでている。いずれ再チェックする予定である。それ以外のものは総て、同一検者により就学前と就学後のテストがおこなわれている。以上の結果は、極小未熟児においては小学校1-2年生では未だ改善傾向を示すものが多数存在することを示している。

この結果は、極小未熟児のフォローは最近、小学校3年生までにおこなうことが必要であることを指差するものである。

表1

就学後IQ検査(2回検査例)

日本赤十字社医療センター
川上

No	在胎週数	出生体重	第1回検査日	IQ	第2回検査日	IQ	
1	26	1012	'93.1	100	'94.9	128	↑
2	25	744	'93.1	88	'94.11	105	↑
3	30	1148	'93.1	111	'94.9	99	↓
4	28	802	'93.3	83	'94.9	87	↑
5	26	894	'93.3	79	'94.10	83	↑
6	30	915	'93.4	114	'94.9	109	↓
7	28	818	'93.4	89	'94.10	80	↓
8	26	828	'93.4	73	'94.10	89	↑
9	35	1404	'93.5	94	'94.11	100	↑
10	29	1358	'93.5	68	'94.10	96	↑
11	30	1238	'93.6	121	'94.11	124	↑
12	30	1326	'93.5	127	'94.11	110	↓
13	30	1450	'93.5	116	'94.11	120	↑
14	25	962	'93.5	95	'94.11	100	↑
*15	29	1070	'93.5	110	'94.11	88	↓
16	25	810	'93.6	85	'94.11	102	↑
17	28	1165	'93.1	86	'94.10	97	↑
18	28	1067	'93.6	88	'94.11	106	↑
19	32	1228	'93.12	102	'94.11	107	↑
*20	27	945	'93.8	101	'94.11	84	↓
21	27	870	'93.11	94	'94.11	101	↑
*22	26	1050	'93.12	117	'94.11	82	↓
23	35	1450	'93.11	127	'94.11	129	↑

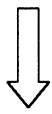
表2

極小未熟児の就学前後における微細神経徴候・知能検査結果の変化
(23名)(日赤医療センター:川上、慈恵医大:前川、中江)

	就学前 (5歳8か月-6歳8か月) (平均6歳1か月±3.6か月)			就学後 (6歳10か月-8歳4か月) (平均7歳4か月±3.3か月)		
	正常	境界	異常	正常	境界	異常
・側方注視	17	6	0	21	2	0
・回外・回内	9	14	0	17	6	0
・鏡像運動	13	8	2	20	3	0
・不随意運動	20	2	1	21	0	2
・片足立ち	8	14	1	16	7	0
・継ぎ足歩行	12	11	0	20	3	0
・crossed laterality	なし 10 あり 13			なし 12 あり 11		
・VIQ	93.7 ± 17.2 (NS*)			98.3 ± 15.6		
・PIQ	103.5 ± 14.6 (NS)			104.3 ± 13.4		
・FIQ	98.3 ± 17.1 (NS) *: p=0.053 (one-tail)			101.1 ± 14.5		
・左右識別	4	5	1	18	5	0
	正常	境界	異常	正常	境界	異常
	4	5	1	18	5	0
	未施行	13				
・Gerstmann 徴候				15	6	2
				正常	境界	異常
				15	6	2



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



方法:日赤医療センターにおいて2名の極小未熟児について、就学前(6歳1ヵ月 \pm 3.6ヵ月)、就学後(7歳4ヵ月 \pm 3.3ヵ月)の微細神経徴候の変化を検討した。また、同時にWISC-Rを施工し就学前と比較した。